

# 黒部市民病院で全身麻酔手術を受けた患者さんへ

当科では下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用または提供されることを希望しない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

## 研究課題名

- 全身麻酔術後の経静脈的自己調節鎮痛ポンプ内グラニセトロン混注は術後嘔気嘔吐を軽減するか

研究機関 黒部市民病院 麻酔科

研究責任者 亀山 暁世

## 研究の目的

- 全身麻酔手術では、手術の後に吐き気や嘔吐が起こる『術後嘔気嘔吐』は最もよく起こる合併症のひとつであり、2割から3割程度の方が経験するとされています。術後嘔気嘔吐は患者さんの術後の回復のさまたげになるため、軽減する方法が模索されていますが、日本では決まった基準（ガイドライン）はないのが実情です。
- 『術後嘔気嘔吐』が起こりやすくなる原因として、手術の後の痛み止めとして麻薬を使用すること、があります。麻薬の副作用に吐き気や嘔吐があるためです。しかし、痛みを抑えるためには必要であり大事な薬です。
- 手術の後に点滴から持続的に麻薬を流すために、『経静脈的自己調節鎮痛ポンプ』という機器を使用しています。このポンプ内に麻薬とともにグラニセトロンという吐き気止めの薬剤を入れることによって、『術後嘔気嘔吐』を減らすことができるかを調査します。

## 研究の方法

- 研究対象者：黒部市民病院で以下の期間に全身麻酔による手術を受けた方のうち、手術の後の痛み止めとして『経静脈的自己調節鎮痛ポンプ』を使用された方。手術診療科や手術の種類は問いません。
- 研究対象期間：2024年3月1日から2024年5月31日まで
- 研究方法：当院で管理するデータベースに診療情報を登録します。
- 研究に使用する試料：なし
- 研究に使用する情報：患者さんの年齢、性別、手術の術式、喫煙歴の有無、麻酔方法、ポンプ内への混注薬剤、術後の嘔気嘔吐の有無、術後の制吐剤使用の有無を電子カルテから調査します。患者さん個人が特定できないように、これらの情報は完全に匿名化され、データベースに登録されます。
- 試料：情報の保存：登録された情報は研究責任者の責任の下保存されます。保存期間は本研究の成果が論文等で発表されるまでとします。
- 研究成果について：登録された情報をもとに、統計処理などをした上で学会発表や学術論文などの公表に研究責任者が用います。日本臨床麻酔学会第44回大会（2024年11月開催予定）において発表を予定しています。
- 費用負担や不利益、危険性：研究の対象となった患者さんに費用負担はありません。また、謝礼も発生しません。匿名化された診療情報のみを登録し用いるため、患者さんに不利益および危険性は生じません。

## 問い合わせ先

黒部市民病院 麻酔科

〒938-8502 富山県黒部市三日市 1108-1

研究担当医師：亀山暁世

連絡先：0765-54-2211